GAME REPORT

ＪＡ共済カップ第35回京都招待少年サッカー大会Ｕ-１１　※台風の影響で初日は中止、二日目のみの開催

期　日　2015　年　7　月　19　日　　会　場　宝ヶ池球技場（京都市北区）

天　候　晴れ　　帯同　（監督）二村　（ＧＫコーチ）松代

結　果

試合No.		自チーム	TOTAL				TOTAL	相手	
No.1	ＧＬ	大阪	12	7	VS	0	0	坂井TC（福井）	
				5		0			
No.2	ＧＬ	大阪	7	5	VS	0	0	東地区TC（京都市）	
				4		0			
No.3	準決	大阪	3	1	VS	0	0	焼津TC（静岡）	
				2		0			
No.4	決勝	大阪	8	5	VS	0	0	ラピド名張（三重）	
				3		0			

★最終結果　優勝／12チーム中

【採用システム】　1-2-4-1

・守備テーマ　①積極的にボールを奪う　②ゴールを守る　③狙いもって奪う　④ポジショニング

・攻撃テーマ　①ゴールを奪う、ゴールを目指す　②全ての選手が関わり続ける　③ビルドアップの質　④ポゼッションの質　⑤ポジショニング　⑥GKとの連携

◆守備について

積極的にボールを奪う意識は全体的に高かった。自分なりに狙いをもってボールを奪う意識がある選手は多かったがポジショニングがあいまいな為、それが原因で奪いきれない場面もみられた。ただ、どのゲームも相手選手との能力差があり、奪うタイミングを逃してもその直後に奪えてしまう状況が多かった。その状況を明確に選手達に伝えた。攻撃的な選手が多かったが、多くの選手にＣＢをやらせた。正しいポジションをとれない選手が非常に多かった。サッカーの原理原則を理解し、それが習慣化されている選手はまだまだ少ない。特に、攻⇒守の切り替え時に正しいポジションがとれない。その状況に対してＧＫ選手のコーチングがほぼなかったが、ＧＫコーチの働きかけもあり徐々に改善されていった。

◆攻撃について

個での積極的な突破が数多く観られ非常に良かった。反面、周りの選手の関わりが少なかった。個で圧倒できることは予想していたので、周りの選手が『関わる』『動き出す』を求めた。いつ動き出すか？いつ相手の背後をとるか？選手たちに気付かせる働きかけをした。ゲームを経験するごとに、徐々にボール保持者の状況を観て動きだして関われる選手が出てきた。幅を使ったポジショニングやビルドアップ、パスの質については最後までなかなか改善することができなかった。後期の課題であると感じた。

今回参加したＧＫ2名については、判断、キックの質、サポートポジション、サポートのタイミングなどどれをとっても非常に良かった。

◆優秀選手賞（大会本部により選出）

森脇勇人、塚原渓人、長野太亮、上村翔吾

◆総括

本来、2日間の大会であったが台風による警報発令の為、初日が中止となり2日目に1日完結のプログラムに変更して行われた。猛暑の中、4試合と非常にハードではあったが、大阪として後期に向けての課題が抽出できた良い大会となった。後期プロテクト選手を選考する面でも非常に参考になった。相手選手との能力差が大きく結果的には圧倒しての優勝となったが、細かい質の部分やサッカーの原理原則の理解について、まだまだ課題は山積みである。選手、スタッフともに大阪府のセントラルトレセンとしてもっと質を高めていかなければならない。

■報告日　2015　年　8　月　12　日

■報告者　大阪府セントラルトレセンＵ-１１　二村　歩

①集合写真

②決勝戦直前

③閉会式1

④閉会式2